令和５年度南九州支部総会報告

南九州支部長　福田秀文

令和５年８月６日鹿児島勤労者交流センターにて南九州支部総会を開催致しました。出席者は南九州支部会員 109 名中 11 名の会員 17 名の出席でした。その他、中原教授、小松幹事（福岡支部）、本部事務局より大漉様、下妻様にご参加いただき合計で 21 名となりました。

最初に支部長より「子供たちには大学生活も謳歌してほしいと思う反面、国家試験という壁も意識しながら大学生活を過ごしてほしい、そのためには、学生、保護者、大学との双方向での連携が重要ではないか、その一部の役割を果たしているのが支部総会ではないでしょうか」との投げかけから、総会がスタートしました。

まず、資料に基づき、活動状況、令和４年度の会計報告などを行い、支部役員の承認及び会計報告については参加者の全会一致で承認されました。その後、支部役員の自己紹介があり、総会は終わりました。

続いて、大学よりお越しいただいた中原教授より大学の現状と取り組みについてで「①全般的な６年間のカリキュラムと年間スケジュール　②各学年進級率・薬学共用試験（CBT・OSCE）の合格率　③第 108 回の国家試験合格率の説明　④各学年でのカリキュラムや学力強化策について　※各学年共大事な学年ではありますが、入学時の成績よりも、1 年生の終わり、または 2 年生の始めの成績とその後の成績と相関していることや 4 年次の共用試験、特に CBT の成績と国家試験の合格との相関があることを統計で提示して分かりやすく説明して頂きました。

その後は中原教授を囲み、昼食をとりながらの懇親会を行いました。

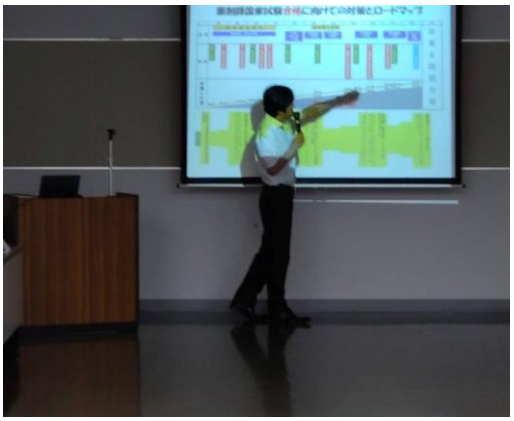
懇親会の中で保護者から「卒業試験についても、もう少し難易度を下げて卒業者を増やしてほしいとの要望に対し、これまでゼミによる試験問題から学内で試験を作成していることやその試験の難易度と国家試験の難易度は合致しており、そのためここ数年の高い合格率に繋がっていると説明がありました。」また、印象的だったのは、4 年次から 6 年次の学年ごとのロードマップが示されており国家試験または卒業に対する自分の実力がどの位置（合格・卒業延期・CBT 不合格など）にあるのかが実力試験や模試でわかるようになっていることでした。合格ラインにない人は、どの程度努力が必要なのかの目安にもなり、

保護者としても興味深く聞かせて頂きました。しかし、その成績については個人情報保護法により学校から保護者に直接教えることはできないとのことでした。更に大学側も 3 月の卒業率や国家試験合格者数を増やすために様々な分析を行い、特に低学年においてモチベーションを維持するため、より臨床に近いカリキュラムを取り入れるなどここ数年改革に着手しており、成果が見え始めているとのことでした。

　最初は皆さん緊張した雰囲気でしたが、話が進むにつれ、子供とコミュニケーションがうまくとれない、子供が頑張ってくれている、参考書は何を準備したらいいのかなど時には笑いもあり、共通の話題に頷きながら聞き入り、和やかな雰囲気で予定していた 1 時間があっという間に過ぎ、とても有意義な時間となりました。

今後、少しでも多くの保護者の方々が参加していただける支部総会になることを願います。

最後になりましたが、大学よりお越しいただいた中原教授、また福岡支部の小松幹事、本部事務局の大漉様、下妻様、ご協力いただいた会員の皆様、役員の皆様、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



中原教授による講演・懇親会